

今年は今まで経験したことのない猛暑に見舞われている北海道ですが、夏といえば冷えたビールということで、札幌の中心部・大通公園で開催している『さっぽろ大通ビアガーデン』へ行ってきました。

こちらのビアガーデン、札幌の夏の風物詩として有名ですが、始まりは1959年(昭和34年)とのこと。現在は大通公園の6区画を会場として使用し、約10,000席以上用意しており、北の大地北海道らしく国内最大級の規模だそうです。

また、それぞれの会場で国内外の違う銘柄のビールが楽しめるので、ビール好きな方には堪らないのではないのでしょうか。

開催期間は7月18日から8月13日までとなっておりますので、札幌へお越しの際はぜひお立ち寄りくださいませ！！

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



愛知県と言えばトヨタのお膝元。関連施設も多いです。有名なのは長久手にあるトヨタ博物館で、私も過去に訪れた事があります。名古屋市内にも『トヨタ産業技術記念館』と言う施設があります。1994年からありましたが、当時は『産業記念館』と言う名前でトヨタ関連の施設と気付きませんでした。

実際に訪れると『繊維機械館』と『自動車館』に分かれており、まずは繊維機械館に入る。トヨタの原点、紡織の機械が多く置いてあり、実際に解説員の説明を聞きながら動かして頂けます。豊田参入前の江戸時代からの人力織機からつい最近の機械まであり、説明を聞きながら見ていると「なるほど！」と思う事も多く、非常に勉強になりました。豊田佐吉氏の開発した機械もありました。スピードや正確性などが上がり、低コスト化されたことが素人の私でもわかりました。解説者が居なかったらここまで理解出来なかったと思います。

自動車館でも当時のボディを手作業で板金している風景を模型で再現。プレス機や自動ロボットがボディ溶接する工程を、まるで工場見学に来たかのように見ることができます。想像以上に良い物が見られました。トヨタ2000GTなど名車の展示もあり、オススメです。



中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、東京都文京区にある湯島聖堂を紹介いたします。

JR御茶ノ水駅聖橋口から聖橋を渡った右手にある史跡で、1690年に江戸幕府5代将軍徳川綱吉によって幕府直轄の学問所として建てられました。もともとは林羅山が造営した孔子廟を綱吉が大成殿と改称し、それらに付属する建物も含めて聖堂と呼ぶように改められました。湯島天満宮と合わせて合格祈願のために受験生が訪れる場所で、国の史跡にも指定されています(数十年前の自分の受験祈願を思い出しますね…)。

1922年に国の史跡に指定されたのですが、翌1923年に関東大震災による火災で多くの建物が焼失し、現在の大成殿は1935年に鉄筋コンクリート造りで再建されたものです。

また構内には世界最大と言われる孔子像が飾られていますが、1975年に台北ライオンズ・クラブから寄贈されたものです(近くで見ると、かなり大きいです)。

ちなみに大成殿は土日、祝日のみ解放されていて見学が可能となっています。

高知の鰹のたたきを知ってしまうと、もう他では食べられないかとも思えるほど本場の鰹は感動しました。

お店の名は『明神丸はなれ』。鰹のたたきは塩とタレと二種類選べ、両方食べるのがおすすめですが、個人的には塩が好みでした。また、土佐巻きという鰹のたたきが具材の巻き寿司もありますが、ボリュームがあり、鰹の臭いもなく逆に旨味が深く、巻き寿司最高レベルかと。

もし高知へ行くことがありましたら、土佐巻きもしくは鰹のたたきをご堪能ください。そしてお店は明神丸はなれへ。わたしもまた行きたいと思います。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

先月、家内と一緒に西ジャワ州のガルト(Garut)というところへ、車で4時間ぐらい掛けて行きました。ガルトは高原地帯であり結構涼しく、温泉もあるところです。インドネシア人には温泉に行くという習慣があまりなく、温泉旅行はあまり聞いたことがないです。そのため、日本みたいに温泉を旅行の目的にして計画されていません。

ガルトに着いたらインドネシアの温泉の雰囲気を知りたかったので、一番有名な温泉に行ってみました。残念ながら温泉というイメージとは全然違って、普通のスイミングプールみたいな感じで、水は火山から出る温かい硫黄水を蓄えています。その温泉に入ろうと思っていましたが予約しなかったの、明日か明後日に予約すれば入れますよ、と言われて最終的には入ることができませんでした。

温泉以外だと、ガルトは牛革のレザークラフトが有名です。牛革で作られた靴、靴、ベルトなど安く売られています。レザークラフトの商品は安価なものから高価なものまであり、ジャカルタで買うと1万~2万の物が、ここだとなんと3割か4割ぐらいの値段で売っています。家内はお土産として牛革で作られた高価そうな女性用の靴を買いました。ジャカルタに戻って、そのお土産の靴を子供たちに見せてやると、子供たちはまさかそんな安い値段だとは、とみんなびっくりして、一度ガルトへ行ってみたいと言っていました。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

〜カリフォルニアの夏、本番！〜

ついにやってきました、本気の夏！ここカリフォルニアも、ぐんぐん気温が上がってきて、本格的な暑さを感じる毎日です。

この時期になると、よく耳にするのが『Heat Wave(ヒートウェーブ)』という言葉。日本語では『熱波』と訳されますが、これは何日間も続く猛暑のことを指します。そしてこの熱波の季節、カリフォルニアでは山火事が増える時期でもあります。私自身、アメリカに来るまでは山火事なんてニュースの中の話だと思っていたのですが…。実際に近所まで火の手が迫ってきたことがあり、あの時は本当にドキドキしながら眠ったのを今でも覚えています。でも、夏といえば山火事だけじゃありません！(笑)

7月といえば、アメリカでは一大イベント『独立記念日(Independence

Day)』があります。日付はもちろん、7月4日！日本でも夏祭りの季節になると花火を見る機会がありますが、アメリカでは普段、花火は禁止されている州が多いため、この日はまさに『解禁日』。それも想像以上のスケールで、住宅街のど真ん中から、まるでお祭り会場で見えるような大きな打ち上げ花火がどんどん上がります。初めて見た時は、町全体が花火で包まれるような迫力のある光景に本当に驚きました！さらに、上空からその景色を楽しめるヘリコプターツアーなんかもあるんです。夜空一面に広がる花火の海を、空から見下ろすなんて…まさに映画のような体験ですよ。

今年の夏も、安全に、そして思いっきり楽しみましょう！暑さ対策と火の元にはくれぐれも気をつけて、素敵な思い出がたくさん作れますように。

KCS(アメリカ)(GM: Ayano Donnelly)

シンガポールは実に小さな都市(国)で、面積は約720km²です。東西の距離はわずか50km、渋滞がなければ車で30~40分ほどです。南北の距離はわずか27km。面積は小さいにも関わらず、人口はすでに600万人近くに達しています。

この統計から、この都市は非常に人口密度が高いことが分かります。将来的にスペースを確保するため、シンガポールでは住宅やインフラの整備が進められており、今後もさらに拡大していくでしょう。現在、政府は住宅建設用の土地の解放や、南北に走る道路用の地下トンネル建設を急いでいます。トンネルが完成すれば、トンネル上部の土地は他の用途に利用できるようになります。

一方で、人々はより多くの成果を上げようと競い合い、生活のペースが非常に速いです。これが生活のバランスを崩しています。よりゆっくりとした生活を求め、人生を楽しむために、一部の人は他国へ移住させざるを得なくなりました。新世代のZ世代は、よりリラックスしたライフスタイルで知られていますが、彼らがどのようにこうした生活ペースに適応していくのかは大きな疑問です。彼らは最終的にシンガポールに適応していくのでしょうか、それとも独自の生き方を見つけるのでしょうか？

KIO(シンガポール)(E.Wong)

毎年、夏の気温が変化していることに気づきました。例えば7月上旬には、気温が37℃を超える熱波に見舞われました。これはオランダでは異例のことです。オランダでは乾期が長くなり、水供給に負担がかかっています。暑い時期には水の需要が増加します。同時に、十分な量のきれいな水を供給することができます。乾燥した気候は水質悪化を招き、飲料水、農業、そして自然界にも悪影響を及ぼしています。

オランダでは1人当たり1日約128Lの水を使用しています。この水の多くは湖から供給されています。しかし、将来的には海水を使って飲料水を作ることが考えられています。いくつかの企業は、海水から塩分を取り除く特別な技術の開発を試みています。これは、微細フィルターのように機能する膜を用いて行われます。水だけが通過し、塩分は残ります。しかし、このプロセスには多くのエネルギーが必要です。そのエネルギーが化石燃料から得たものだ、と二酸化炭素が発生し、気候に悪影響を及ぼします。そのため、この方法をより持続可能なものにするためには、太陽光発電などのグリーンエネルギーが重要です。

また、残った塩の問題もあります。きれいな水1Lに対して、約1.5Lの塩水が残ります。この塩はしばしば自然界に流れ込み、海洋生物に悪影響を及ぼします。専門家は、海水の利用を最優先にすべきではないと考えています。節水、再利用、雨水の利用など、複数の解決策を組み合わせる方が良いでしょう。一部の地域では、より多くの水を貯留する計画が既に進められています。これらの対策は、海水を主要な水源として利用する前に重要なことです。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)